

東京都立大学 大学院課程教育

「課程の修了の認定に関する方針」及び「教育課程の編成及び実施に関する方針」

プログラムの名称： 人間健康科学研究科

人間健康科学専攻・フロンティアヘルスサイエンス学域

1. 課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

【博士前期課程】

(1) 取得できる学位

修士（健康科学、学術）

(2) 取得できる資格

該当なし

(3) 育成する人材像

人間健康科学における諸課題に対して、学際的・先端基礎医科学、臨床医科学、疫学の知識や研究戦略を活用し自立した研究活動を実践できる高度な研究者。また、高度専門的業務に要求される高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を備えた人材。さらに、学際的・先端基礎医科学および臨床医科学領域における高度な教育を実践できる教育者。

修了後の進路は、大学教員、大学研究員、研究所研究員、大学院博士後期課程進学、病院、企業、行政など。

(4) プログラムの特色

人間健康科学における諸課題に対して、学際的・先端基礎医科学、臨床医科学、疫学的研究を自立的に推進できる能力を獲得できる。学際的・基礎医科学的研究を積極的に推進するために、最先端の科学技術の開発及びシステムのアプローチにより、本研究科の他の5学域と柔軟かつ有機的に連携をおこなう他、連携大学院である東京都医学総合研究所等の諸研究所などにおける最先端・総合的研究基盤を活用した教育研究を推進する。さらに、社会人学生の修学支援の趣旨を重視し昼夜開講制を採用する。

(5) 専門知識及び研究開発その他の能力

人間健康科学における諸課題に対して、学際的・先端基礎医科学、臨床医科学、疫学的研究

戦略を活用し自立した研究活動をおこなうための広い視野、高度な専門性・実践能力を修得できる。また、高度専門的業務に要求される高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を修得できる。さらに、学際的・先端基礎医科学および臨床医科学領域における高度な教育を実践できる能力を修得できる。各分野の特徴は以下である。

<筋肉生理学>

- ・生理学・薬理学的研究方法の習得
- ・臓器の筋収縮弛緩や構成細胞運動のメカニズム研究の実践的理解

<機能形態解析科学>

- ・マクロ解剖から遺伝子解析までの研究方法の習得
- ・腓線維化/膵癌の進展の病態・内臓脂肪蓄積メカニズムに関する研究の実践的理解

<地域保健活動評価論>

- ・疫学の知識や保健統計学・量的研究方法の習得
- ・効果的な保健活動評価のための研究の実践的理解

<社会科学的保健医療論・災害リスク管理論>

- ・社会福祉、医療政策、医療経済、災害対策などにおける問題意識の醸成
- ・社会科学的分野で通用する研究能力の涵養

(6) 修了要件

2年以上在学し、授業科目 30 単位以上を修得するとともに、学位論文（修士論文）を提出し、フロンティアヘルスサイエンス学域論文審査会における最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究成績を上げた場合、1年以上在学すれば足りる。

○学位論文の審査基準

申請者は、事前に指導教員の承認を得て論文題目を決定し、作成した論文を指導教員に提出する。申請者は、指導教員が論文を受理したことを証する書類を添えて学位申請を行い、その申請の可否が研究科教授会において決定される。可とされた場合は、研究科教授会は審査会（審査委員 3 名以上、うち 1 名が主査）を設置する。その際、必要があれば、他研究科や学外の教員等を審査会に加えることができる。審査会は、提出された学位論文の内容を厳格に審査する。申請者は修士学位論文を日本語または英語で作成し提出する。公開の場で研究成果を日本語または英語で発表し、質疑に応ずる。審査会は、論文、発表について、以下の評価項目により合否判定を行い、学域教授会を経て研究科教授会に報告する。最終的な学位授与の可否は、研究

科教授会で決定される。

1. 研究目的と方法の明確性

- ・問題意識が明確で、目的が適切に設定され、妥当な方法が選択されていること。
- ・国内外の先行研究を網羅的に検討し理解していること。
- ・研究目的に対して、研究のデザイン・研究方法・分析方法が適切であること。

2. 論文構成

- ・論文構成が的確で、論理的に記述され、整合性、一貫性をもって論旨が展開されていること。
- ・文献の引用が適切であり、基本的体裁が整えられていること。

3. 専門的知識と研究分野の理解

- ・研究分野における先行研究の成果を適切に検討し、理解されていること。

4. 研究の意義

- ・研究分野における社会的・学術的な意義が認められること。

5. 研究倫理の遵守

- ・研究計画の立案、研究方法、研究の遂行、研究成果の発表並びにデータの保管および、適切な倫理的配慮がなされていること。
- ・研究倫理として、データ改竄、捏造、剽窃などの研究不正を行っていないこと。

6. 研究遂行のために必要な態度・資質

- ・公開審査での発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明解であること。
- ・研究者として、プレゼンテーション技術を身に付け、自己の研究成果を適切に示すものであること。

【博士後期課程】

(1) 取得できる学位

博士（健康科学、学術）

(2) 取得できる資格

該当なし

(3) 育成する人材像

人間健康科学分野における諸課題に対して、学際的・先端基礎医科学、臨床医科学、疫学の研究戦略を活用し自立した研究活動をおこない、国際的にも活躍できる独創性・創造性を有する高度な研究者。また、高度専門的業務に要求される高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を備えた国際的にも活躍できる能力を有する人材。学際的・先端基礎医科学および臨床医科学領域における国際的視野に立脚した高度な教育を実践できる教育者。

修了後の進路は、大学教員、大学研究員、研究所研究員、病院、企業など。

(4) プログラムの特色

人間健康科学分野における諸課題に対して、国際的な視野に立ち高い独創性・創造性をもって学際的・先端基礎医科学、臨床医科学、疫学的研究を推進できる能力を獲得できる。学際的・基礎医科学的研究を積極的に推進するために、最先端の科学技術の開発およびシステム的アプローチにより、本研究科の他の 5 学域と柔軟かつ有機的に連携をおこなう他、連携大学院である東京都医学総合研究所の諸研究所などにおける最先端・総合的研究基盤を活用した教育研究を推進する。さらに、社会人学生の修学支援の趣旨を重視し昼夜開講制を採用する。

(5) 専門知識及び研究開発その他の能力

人間健康科学分野における諸課題に対して、学際的・先端基礎、臨床医科学および疫学的研究戦略を活用し、自立した研究活動をおこなうための国際的な広い視野、高度な専門性および高い実践能力を修得できる。また、高度専門的業務に要求される国際的にも高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を修得できる。さらに、学際的・先端基礎および臨床科学領域における国際的にも高度な教育を実践できる能力を修得できる。各分野の特徴は以下である。

<筋肉生理学>

- ・ X 線回折法など最新の生理学・生化学・薬理学的研究方法の習得
- ・ 臓器の筋収縮弛緩や構成細胞運動のメカニズム研究の実践的理解
- ・ 生体運動科学における問題発見と科学的理解のための実践的研究能力の獲得

<機能形態解析科学>

- ・ マクロ解剖から遺伝子解析までの研究方法の習得
- ・ 腓線維化/腓癌の進展の病態・内臓脂肪蓄積メカニズムに関する研究の実践的理解
- ・ 機能形態解析科学における問題発見と科学的理解のための実践的研究能力の獲得

<地域保健活動評価論>

- ・ 疫学の知識や保健統計学・量的研究方法の習得
- ・ 効果的な保健活動評価のための研究の実践的理解
- ・ 地域保健活動評価における問題発見と科学的理解のための実践的研究能力の獲得

<社会科学的保健医療論・災害リスク管理論>

- ・ 社会福祉、医療政策、医療経済、災害対策などにおける解決法の立案

- ・研究成果の社会還元と実践

(6) 修了要件

3年以上在学し、授業科目14単位以上を修得するとともに、学位論文（博士論文）を提出しフロンティアヘルスサイエンス学域学位論文審査会における最終試験に合格すること。なお、学位論文の審査基準は以下である。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究成績を上げた場合、1年以上在学すれば足りる。

○学位論文の審査基準

申請予定者は、事前に指導教員の承認を得て論文題目を決定し、英語、または日本語で作成した学位論文および学位申請書を研究科教授会に提出する。申請が受理された場合は、研究科教授会は審査会（審査会委員3名以上、うち1名が主査）を設置する。その際、必要があれば、他研究科や学外の教員等を審査会に加えることができる。審査会は、提出された学位論文の内容を審査する。申請者は、審査会の助言を反映させた学位論文の最終版を、研究科教授会に提出する。また、公開の場で研究成果を英語または日本語で発表し、質疑に応ずる。審査会は、論文・発表について、以下の審査基準により合否判定を行い、さらに学域教授会議を経て、研究科教授会に審査結果を報告する。最終的な学位授与の可否は、研究科教授会で決定する。

1. 研究目的と方法の明確性

- ・問題意識が明確で、目的が適切に設定され、妥当な方法が選択されていること。
- ・国内外の先行研究を網羅的に検討し理解していること。
- ・研究目的に対して、研究のデザイン・研究方法・分析方法が適切であること。

2. 論文構成

- ・論文構成が的確で、論理的に記述され、整合性、一貫性をもって論旨が展開されていること。
- ・文献の引用が適切であり、基本的体裁が整えられていること。

3. 専門的知識と研究分野の理解

- ・学位論文に直接関連する研究分野とその周辺領域に関する専門知識を有していること。

4. オリジナリティ

- ・研究テーマや方法、枠組み、解釈の視点、研究成果などのいずれかに新たな事実の発見や批判思考を通して、独創性が述べられていること。

5. 研究の意義

- ・看護学の発展に寄与する成果が示されていること。

6. 研究倫理の遵守

- ・研究計画の立案、研究方法、研究の遂行、研究成果の発表並びにデータの保管および、適切な倫理的配慮がなされていること。
- ・研究倫理として、データ改竄、捏造、剽窃などの研究不正を行っていないこと。

7. 研究遂行のために必要な態度・資質

- ・最終試験（学位論文審査、公聴会）での発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明解であること。
- ・自立した研究者として、国内外で積極的にプレゼンテーション（研究発表・論文発表）等を行い、研究遂行能力を示すものであること。

本学在学生在が修了要件を確認する場合は、必ず入学年度発行の履修の手引きを参照すること。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

（1）（1）教育課程編成の基本方針

フロンティアヘルサイエンス学域が目指す基礎・臨床医科学、疫学、社会医学などを統合した学際的かつ先端的な戦略にもとづく研究を実践する上で重要な基礎的能力を獲得できるようにするために、各分野の専門科目はいうまでもなくそれ以外の分野の基礎知識や考え方が正しく涵養できる様、以下の通り適切に編成する。

【博士前期課程】

、社会人学生の受講も可能なように、個々の学生の事情を配慮し、必要に応じて集中講義なども設定する。演習科目や特別研究では、実践的研究能力を養うために実験方法・データ解析・論文のまとめ方・議論などについて教授する。また、世界最先端の学術研究関連の情報を知るために、関連研究論文の抄読や議論などを実施する。指導教授からは懇切丁寧な講義や演習指導が提供されるが、自主的な学術研究の知識の獲得や研究の実践能力を涵養するために、学生自らの授業に対する積極的な姿勢は大いに評価される。評価は、試験、レポート、授業態度、出席、議論などによって総合的に判断する。

① 科目

科目編成の考え方と概要

フロンティアヘルサイエンス学域の基礎・学際共通科目として「分野共通必修科目」が設置されているほか、各分野の専門科目である「分野必修科目」および修士論文の完成のための「必修科目」が設置されている。詳細は以下である。

1) 必修科目

「フロンティアヘルスサイエンス特別研究 a」および「フロンティアヘルスサイエンス特別研究 b」は必修科目である。研究遂行に必要な基本的な知識を修得する。

2) 分野必修科目

各専門分野を詳細かつ深く理解し、分野の研究実践能力を涵養するために、各分野からは演習科目を含む3つの分野必修科目が設置されている。詳細は以下である。

<筋肉生理学>

「生理学特論」、「筋肉生理学特論」、「生理学特論演習」、「筋肉生理学特論演習」

<機能形態解析科学>

「機能形態学特論Ⅰ」、「機能形態学特論Ⅱ」、「機能形態学特論演習Ⅰ」、「機能形態学特論Ⅱ」

<地域保健活動評価論>

「地域保健活動評価論特論」、「保健情報管理論」、「地域保健活動評価論特論演習Ⅰ」、「地域保健活動評価論特論演習Ⅱ」

<社会科学的保健医療論・災害リスク管理論>

「社会科学的保健医療論」、「社会科学的保健医療論演習」、「災害管理リスク論」、「災害管理リスク論演習」

3) 分野共通必修科目

各分野担当教授によるオムニバス形式の演習である「フロンティアヘルスサイエンス特論演習」と、国際会議における研究発表と議論のための「医科学英語プレゼンテーションスキルⅠ」、「医科学英語プレゼンテーションスキルⅡ」は分野共通の必修科目として設置されおり、実践的な研究遂行能力を涵養する。

4) 上記科目に加えて、「認知神経科学特論」、「脳機能解析科学特論」、他分野の提供科目は選択科目なので、自由に選択できる。

5) 専攻共通科目

必要に応じて人間健康科学研究科他学域が提供する科目を取得することが可能である。

②研究

指導教授および副指導教員による個別指導や分野（研究室）における議論などによって、自分の研究テーマの正しい科学的解明を目指すとともに、論文の書き方・発表・議論の仕方など

も学ぶ。指導教授からは懇切丁寧かつ適切な研究指導がなされるが、研究の主眼的な実践能力を涵養するために、学生自らの研究に対する積極的な姿勢は大いに評価される。2年次7月までに中間発表会が実施され、修士論文は、論文審査会において審査され、最終試験に合格しなければならない。

【後期課程】

人間健康科学分野における諸課題に対して、国際的な視野に立ち高い独創性・創造性をもって、学際的・先端基礎医科学および臨床医科学的研究を推進できる能力が獲得できるように、課題発見・仮説設定・データ収集・データ解析・考察・論文執筆・論文投稿・査読者との交信などの一連の実践的な研究プロセスを学生自らが体験し学習できるよう配慮しつつ科目が編成され、科目で習得した知識技術を基に研究が実施される。

①科目

高度研究遂行に必要な知識を修得する必修科目および、各分野の専門科目である分野必修科目が設置されている。詳細は以下である

1) 必修科目

「フロンティアヘルスサイエンス特別研究 a」および「フロンティアヘルスサイエンス特別研究 b」は必修科目である。各分野の担当教授から、研究遂行・発表・論文作成および国際学術誌投稿に必要な高度な知識を修得する。

2) 分野必修科目

各専門分野を詳細かつ深く理解し、分野の研究実践能力を涵養するために、各分野からは演習科目を含む2つの分野必修科目が設置されている。詳細は以下である。

<筋肉生理学分野>

「筋肉生理学特講」、「筋肉生理学特講演習」

<機能形態解析科学>

「機能形態解析科学特講」、「機能形態解析科学特講演習」

<地域保健活動評価論>

「地域保健活動評価論特講」、「地域保健活動評価論特講演習」

<社会科学的保健医療論・災害リスク管理論>

「社会科学的保健医療論・災害リスク管理論」、「社会科学的保健医療論・災害リスク管理論 演習」

②研究

科目で習得した知識、技術を基に研究を実施する。指導教員による指導や副指導教員による研

究進捗チェック、研究室全体での議論、最新の関連論文の調査、国内外の学会における研究発表や議論などによって、自分の研究テーマの科学的理解を深めることによりその正しい科学的解明を目指すとともに、論文の書き方・発表の仕方・議論の仕方なども学ぶ。また、学術雑誌への投稿に必要な一連の作業（メールの書き方、投稿規定の理解、編集者・査読者などとの交信・議論、その他）を遂行できる能力を実践的に養う。ここにおいても、指導教授からは適宜、適切な研究指導がなされるが、学生自らの主体的かつ積極的な姿勢は大いに評価される。1年次7月に研究計画発表を、2年次7月に中間報告を実施する、博士論文は、論文審査会において審査され、最終試験に合格しなければならない。

（3）学習成果の評価に関する方針

授業科目については、シラバスに明記された評価方法及び評価基準に基づいて、授業の到達目標への到達度により評価する。学位論文については、以下の審査プロセス及び審査基準により評価する。

（2）教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業科目については、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施し、学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい資質・能力を身に付けることができるよう工夫する。

研究指導については、別に定める研究指導の計画のもと、研究能力・手法の向上を図る。

（3）学習成果の評価に関する方針

授業科目については、シラバスに明記された評価方法及び評価基準に基づいて、授業の到達目標への到達度により評価する。学位論文については、以下の審査プロセス及び審査基準により評価する。

【博士前期課程】

○学位論文の審査基準

申請者は、事前に指導教員の承認を得て論文題目を決定し、作成した論文を指導教員に提出する。申請者は、指導教員が論文を受理したことを証する書類を添えて学位申請を行い、その申請の可否が研究科教授会において決定される。可とされた場合は、研究科教授会は審査会（審査委員3名以上、うち1名が主査）を設置する。その際、必要があれば、他研究科や学外の教員等を審査会に加えることができる。審査会は、提出された学位論文の内容を厳格に審査する。申請者は修士学位論文を日本語または英語で作成し提出する。公開の場で研究成果を日本語または英語で発表し、質疑に応ずる。審査会は、論文、発表について、以下の評価項目により合否判定を行い、学域教授会を経て研究科教授会に報告する。最終的な学位授与の可否は、研究科教授会で決

定される。

1. 研究目的と方法の明確性

- ・問題意識が明確で、目的が適切に設定され、妥当な方法が選択されていること。
- ・国内外の先行研究を網羅的に検討し理解していること。
- ・研究目的に対して、研究のデザイン・研究方法・分析方法が適切であること。

2. 論文構成

- ・論文構成が的確で、論理的に記述され、整合性、一貫性をもって論旨が展開されていること。
- ・文献の引用が適切であり、基本的体裁が整えられていること。

3. 専門的知識と研究分野の理解

- ・研究分野における先行研究の成果を適切に検討し、理解されていること。

4. 研究の意義

- ・研究分野における社会的・学術的な意義が認められること。

5. 研究倫理の遵守

・研究計画の立案、研究方法、研究の遂行、研究成果の発表並びにデータの保管および、適切な倫理的配慮がなされていること。

- ・研究倫理として、データ改竄、捏造、剽窃などの研究不正を行っていないこと。

6. 研究遂行のために必要な態度・資質

- ・公開審査での発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明解であること。
- ・研究者として、プレゼンテーション技術を身に付け、自己の研究成果を適切に示すものであること。

【博士後期課程】

○学位論文の審査基準

申請予定者は、事前に指導教員の承認を得て論文題目を決定し、英語または日本語で作成した学位論文および学位申請書を研究科教授会に提出する。申請が受理された場合は、研究科教授会は審査会（審査会委員3名以上、うち1名が主査）を設置する。その際、必要があれば、他研究科や学外の教員等を審査会に加えることができる。審査会は、提出された学位論文の内容を審査する。申請者は、審査会の助言を反映させた学位論文の最終版を、研究科教授会に提出する。また、公開の場で研究成果を英語または日本語で発表し、質疑に応ずる。審査会は、論文・発表について、以下の審査基準により合否判定を行い、さらに学域教授会議を経て、研究科教授会に審査結果を報告する。最終的な学位授与の可否は、研究科教授会で決定する。

1. 研究目的と方法の明確性

- ・問題意識が明確で、目的が適切に設定され、妥当な方法が選択されていること。
- ・国内外の先行研究を網羅的に検討し理解していること。
- ・研究目的に対して、研究のデザイン・研究方法・分析方法が適切であること。

2. 論文構成

- ・論文構成が的確で、論理的に記述され、整合性、一貫性をもって論旨が展開されていること。
- ・文献の引用が適切であり、基本的体裁が整えられていること。

3. 専門的知識と研究分野の理解

- ・学位論文に直接関連する研究分野とその周辺領域に関する専門知識を有していること。

4. オリジナリティ

- ・研究テーマや方法、枠組み、解釈の視点、研究成果などのいずれかに新たな事実の発見や批判思考を通して、独創性が述べられていること。

5. 研究の意義

- ・先端的基礎健康科学の発展に寄与する成果が示されていること。

6. 研究倫理の遵守

- ・研究計画の立案、研究方法、研究の遂行、研究成果の発表並びにデータの保管および、適切な倫理的配慮がなされていること。
- ・研究倫理として、データ改竄、捏造、剽窃などの研究不正を行っていないこと。

7. 研究遂行のために必要な態度・資質

- ・最終試験（学位論文審査、公聴会）での発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明解であること。
- ・自立した研究者として、国内外で積極的にプレゼンテーション（研究発表・論文発表）等を行い、研究遂行能力を示すものであること。

【博士後期課程】

○学位論文の審査基準

申請予定者は、事前に指導教員の承認を得て論文題目を決定し、原則として英語、指導教員が認めた場合には日本語で作成した学位論文および学位申請書を研究科教授会に提出する。申請が受理された場合は、研究科教授会は審査会（審査会委員3名以上、うち1名が主査）を設置する。その際、必要があれば、他研究科や学外の教員等を審査会に加えることができる。審査会は、提出された学位論文の内容を審査する。申請者は、審査会の助言を反映させた学位論文の最終版を、研究科教授会に提出する。また、公開の場で研究成果を英語または日本語で発表し、質疑に応ずる。審査会は、論文・発表について、以下の審査基準により合否判定を行い、さらに学域教授会議を経て、研究科教授会に審査結果を報告する。最終的な学位授与の可否は、研究科教授会で決定する。

1. 研究目的と方法の明確性

- ・問題意識が明確で、目的が適切に設定され、妥当な方法が選択されていること。
- ・国内外の先行研究を網羅的に検討し理解していること。
- ・研究目的に対して、研究のデザイン・研究方法・分析方法が適切であること。

2. 論文構成

- ・論文構成が的確で、論理的に記述され、整合性、一貫性をもって論旨が展開されていること。
- ・文献の引用が適切であり、基本的体裁が整えられていること。

3. 専門的知識と研究分野の理解

- ・学位論文に直接関連する研究分野とその周辺領域に関する専門知識を有していること。

4. オリジナリティ

- ・研究テーマや方法、枠組み、解釈の視点、研究成果などのいずれかに新たな事実の発見や批判思考を通して、独創性が述べられていること。

5. 研究の意義

- ・先端健康科学の発展に寄与する成果が示されていること。

6. 研究倫理の遵守

- ・研究計画の立案、研究方法、研究の遂行、研究成果の発表並びにデータの保管および、適切な倫理的配慮がなされていること。
- ・研究倫理として、データ改竄、捏造、剽窃などの研究不正を行っていないこと。

7. 研究遂行のために必要な態度・資質

- ・最終試験（学位論文審査、公聴会）での発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明解であること。
- ・自立した研究者として、国内外で積極的にプレゼンテーション（研究発表・国際学術誌での論文発表）等を行い、研究遂行能力を示すものであること。